

年頭のご挨拶

(公財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

会長 鈴木 俊 一

明けましておめでとうございます。

読者の皆様にはご家族ともども健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。今日このように恙なく新年を迎えられる事も、先の大戦においてかけがえのない尊い一命を捧げられた多くの戦没者の皆様の礎の上に築かれているものであることに想いを致し、新春にあたり心から全戦没者の皆様に対する哀悼と感謝の誠を捧げたいと存じます。

我が国では、ワクチン接種の効果もあり、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症はやや下火となっておりますが、世界的なパンデミックは依然として継続しており、「新しい生活様式」の実践が求められております。

昨年を振り返れば、10月18日にはコロナ禍が継続する中、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ秋季慰霊祭を厳粛に滞りなく挙行することができました。本行事实施に対して関係者各位から賜りましたご支援、ご協力に対し、改めまして衷心より厚く御礼申し上げます。また、政府より度重なる緊急事態宣言等の発出により、戦没者慰霊の灯を継続的に灯(とも)すことができるか危惧しておりましたが、例年と同様、年度当初から国・東京都の感染防止の基準に則り、多くの関係諸団体による法要行事が執り行われたことに対しまして、重ねて御礼申し上げます。

さて、千鳥ヶ淵戦没者墓苑におきましては、昭和34年3月28日、昭和天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り竣工されて以来、60年余の歳月が過ぎました。戦後間もなく世相混乱の中、墓苑の創建に携われ、又その後は戦没者の慰霊奉賛に多大なご尽力された方々、並びに奉仕会の活動にご支援、ご協力頂いた多くの皆様のご芳情に思いを致し、年の始めにあたり、今一度戦没者慰霊の原点に立って奉仕会業務を行うことを誓う所存であります。

また、戦没者の遺骨収集の推進に関する法律の制定により、海外における遺骨収集は集中的に行われなければなりません。残念ながらコロナ禍により海外における収集事業は行うことができません。私は「ご遺骨に対して最大限の敬意をもってお迎えすることが必要である」と考えており、ご遺族に安寧がもたらされるよう、一日も早くご帰還することを強く望むものであります。

年間を通じて遺族会、戦友会、並びに篤志団体による慰霊行事・団体参拝、宗教団体による慰霊法要が行われ、又多くの一般の方々のご参拝を頂いている一方で、戦没者崇敬思想の普及の指標となる参拝者数や会員数は減少の一途をたどっております。また、ご遺族等の会員を含めた関係者の高齢化が進む中、これら諸課題の解決策等を含み、ウィズコロナ、ポストコロナ時代を考慮した奉仕会業務のあり方等について、令和3年度末を目途に一案を得る所存であります。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、現在三十七万百十一柱（令和 3 年 10 月 20 日現在）のご遺骨が奉安されておりますが、これらのご遺骨は先の大戦における海外での全戦没者、二百四十万人を象徴するものであり、当墓苑は全戦没者追悼の聖苑にほかなりません。戦没者に対する慰霊奉賛の心を風化させることなく、確実に次の若い世代に引き継いでいけるよう、私どもは日本国民全体の聖苑として、末永く奉賛されるよう努めて参る所存であります。どうか皆様におかれましては、戦没者慰霊奉賛の輪が更に広げられますよう、今後とも引き続き温かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。

本年の皆様方の一層のご多幸とご健勝をお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶と致します。